

一般質問



市長の公約と行政サービスについて（要望・陳情等）

田沢湖病院の常勤医師の確保について

浦山 敏雄

質問

石黒市政が始まってから、早くも一年過ぎたが、合併はゴールでなくスタートでありこれからが本当の正念場の連続である。市長は四項目の公約をしているがその一つに「透明でわかりやすく効率的市政運営」をめざすといっているが、合併後の市民からの、要望、陳情など（除排雪、農業、市道の改良、医療対策、教育、少子高齢化）の要望などが諸々ある。議会に提出されているものもあるが、その取り扱いについて伺いたい。

市長

取り扱いについては、迅速で公正でなければいけないと考えている。又同様の要望、陳情が議会にも出ている場合は、その判断結果を待つことにしている。公平性、緊急性の判断の中で実施計画の中に組み入れ年度ごとのローリングをしながら進めていく。

質問

市長の大事な公約でもある行財政改革が行われてきているが、今後行政評価をどのような内容で行うのか伺いたい。

市長

合併後の方向性を見定めながら進むべき道、方法を検討している。目標には

できるだけ数値目標を掲げその進捗状況について把握し次の手につなげてゆく。議会の皆様にも報告する。実施計画三年の計画を立てローリング方式で行っていく。

質問

毎日のように報道機関等で流れている官制談合の問題であるが、他市町村に歩調を合わせることなく地方自治法の基本に従いできるだけ早く入札制度の改正を行ない一般競争入札の導入を計るべきでないか。

市長

入札制度の見直しについては、常に談合と言われているとおり、適正な行政の発注工事について一番良い方法とすることでも更に検討を重ねたいと思う。一般競争入札導入も非常に大きい効果の一つということ、入札契約室、助役をはじめ、市議会で議論をいただいた上で結論を出していきたい。

田沢湖病院の常勤医師の確保について

質問

私は、この病院医師確保問題については、確実性のない大きな課題としてとらえ、十五年三月議会でも、多額な投資をし立派な病院が完成したが、その内容の充実が絶対必要であると訴えてき

たところである。このように厳しい医師不足の状況は、国県の医療行政に対する見通しの甘さが大半であると思うが、平成十六年からの臨床研修医制度スタートした時から懸念されたことであり、経営者としても責任があると考える。総合的な取り組みを進めていると思うが再開に向けたハードルは非常に高いと判断するがどうか。又田沢湖病院の経営成績や収益性に課題が多くあると考えるがどうか。

市長

病院長とは、今後の仙北市立の病院のあり方について意見交換をしている。救急指定病院の再復活の前に病院としての経営状況の改善のためにも外来診療の体制、入院に対応できる医師体制を取らない限り指摘されるように、収益性の指標が下降傾向に向かう。医師の確保については、市長部局のなかに医師確保対策室を設けて、田沢湖病院を中心に医師の確保に取り組んでいる。

中山開地農業の振興について

質問

平成十七年度仙北市における六十五才以上の農業経営者は五百八十七戸もあ

り、年々高齢化が進み農作業の効率化が必要となってきた。機械化や、ソフト面で協力が必要でないか。また十九年度から始まる品目横断的対策で多くの農家がこの制度に参加できるようにすべきであるが仙北市の状況について伺いたい。

市長

年々少子高齢化が進んできている農家にとっても大変な状況だと思っっている。その地域での組織化を図り市としても機械化や、ソフト面でも支援していく。又経営安定対策ということで、将来の農業の仕組が変わってくるわけで、集落営農組織について現在のところ、角館地区で四組織、西木地区で二組織設立済みで、具体的に話し合いを進めている所が四地域となっている。



田沢湖病院